

2014年11月19日

各位

双日株式会社

双日、デリー～ムンバイ間貨物専用鉄道の電化工事を受注  
～ 軌道敷設工事に続く大型受注 ～

双日株式会社（以下、双日）はインドのラーセン&トゥーブロ社（Larsen & Toubro Ltd.、以下、L&T 社）と共同で、インド政府傘下のインド貨物専用鉄道公社から、デリー～ムンバイ間貨物専用鉄道（Western Dedicated Freight Corridor、以下、DFC 西線）における電化工事を約 500 億円で受注しました。対象区間は 915km で単一の鉄道電化工事として過去最大規模となります。

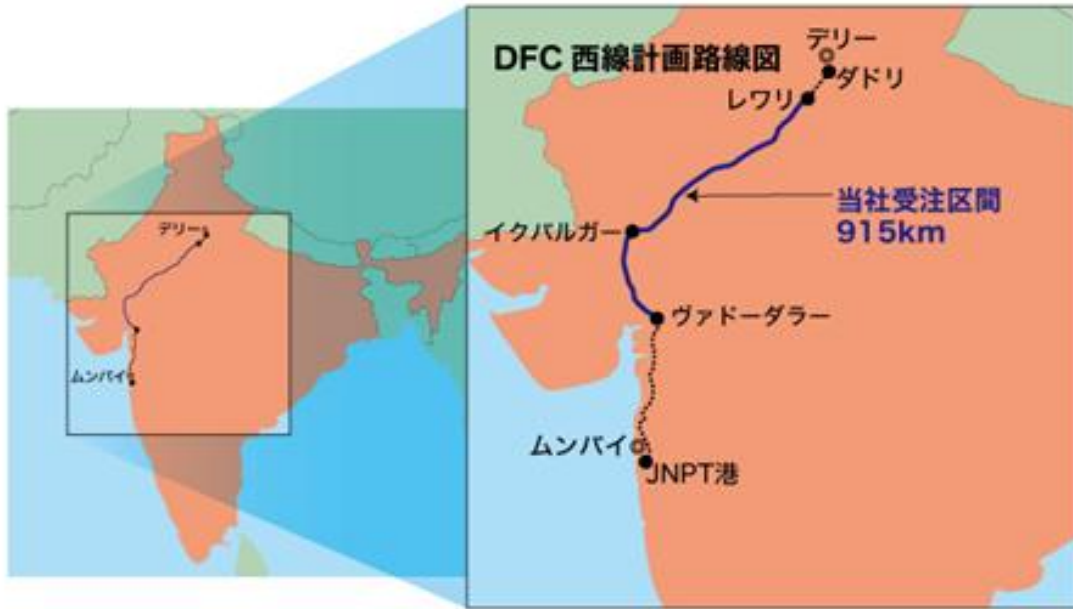
本件は、首都デリーと商業都市ムンバイの間に総延長約 1,500km の貨物専用鉄道を建設する DFC 西線事業のうち、インド北部ハリアナ州レワリ～西部グジャラート州ヴァドーダラー間の 915km を電化するもので、2014 年度中に着工し、変電所（16 カ所）の建設、架線の敷設などを行います。

双日は L&T 社と共同で主契約者となり、コンソーシアム・リーダーとしてプロジェクト全体を管理するほか、日本品の調達に関与します。DFC 西線は本邦技術活用条件（STEP: Special Terms for Economic Partnership）（※）付きの円借款を用いて整備が進められており、本件では受注金額の約 4 割を日本品が占める予定で、変電機器や架線など、日本企業への多くの発注を見込んでいます。

インドでは、今年 5 月にナレンドラ・モディ氏を首相とする新政権が発足し、今後の経済成長に必要な公共インフラ整備促進を重点政策として掲げています。日印が共同で推進する総合産業インフラ開発プロジェクト「デリー・ムンバイ産業大動脈構想（DMIC）」への期待も大きく、DFC 西線はその中核を担います。

双日と L&T 社は、2013 年に DFC 西線のハリアナ州レワリとグジャラート州イクバルガー間 626km の軌道敷設工事を共同で受注しており、本件はこれに続いての受注です。

インドでは、DFC 西線事業の他、高速鉄道事業や多くの都市鉄道事業が計画されています。双日は、同国を鉄道インフラ分野での最重点市場と位置付け、これらの将来案件についても積極的にビジネスを展開していきます。



【インド デリー～ムンバイ間貨物専用鉄道（DFC 西線）】

(ご参考)

会社名：ラーセン&トゥーブロ社

Larson & Toubro Ltd.

(ムンバイ証券取引所、ナショナル証券取引所に上場)

本社：インド ムンバイ

概要：1938年創業のインド最大のゼネコン兼総合エンジニアリング会社。

主軸である建設業、電子工学、エンジニアリングをはじめ、多岐に亘るビジネスを世界規模で展開している。道路、鉄道、橋梁、港湾、空港、水処理、ビル・工場建設などに豊富な実績あり。売上高約 1.5 兆円。

会社名：インド貨物専用鉄道公社

Dedicated Freight Corridor Corporation of India Ltd.

本社：インド デリー

概要：インド鉄道省が、インド国内に貨物専用鉄道を建設し、維持・運営するために 2006 年に設立した公社。

(※) 本邦技術活用条件(STEP: Special Terms for Economic Partnership)とは、日本の優れた技術やノウハウを活用し、途上国への技術移転を通じて日本の「顔の見える援助」を促進するため、日本を原産とする資機材の一定比率以上の調達を条件とした、円借款制度。

以上

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-6871-3404